

音読

俳句のリズムを感じ取りながら
音読や暗唱をしましょう①

年
名前

俳句1(春をよんだ俳句)

俳句(はいく)とは五・七・五の十七音から成るものです。季節や風情ふせう

歌にこめた思いなどを思い浮かべたり、俳句がもつリズムを感じ取ったりしながら読みましょう。

雪とけて 村いっぱいの 子どもかな (小林一茶)

冬の長い間ずっと家の中にいた子どもたちが、春をむかえ、雪とけとともに、待ちかねていたかのよ
うに外へ飛び出した。春の明るい日差しを浴びて、村の中はどこも子どもたちでいっぱいだ。

つめいちりん

はつとりらなせつ

梅一輪 一輪ほどの あたたかさ (服部風雪)

早春、庭の梅が一輪さいた、その一輪に、わずかながらあたたかくなってきていると、春の訪れを
感じる。

うばぎ

かわひがしへきことう

赤い椿 白い椿と 落ちにけり (河東碧梧桐)

紅白の二本の椿(うばぎ)の木から、ぽとり、ぽとりと落ちた椿の花。それぞれの木をかこむよ
うにして、地面に落ちてくる。

ふるいけ

かわず

まつおほしよつ

古池や 蛙飛びこむ 水の音 (松尾芭蕉)

古池にいと、一ぴきのかえるが池に飛びこんだ。あたりはひっそり静まりかえっているので、
その小さい水音さえ、聞き取れる。それほど、深い静けさがある。

な

よ さ ぶ そ ち

菜の花や 月は東に 日は西に (与謝蕪村)

辺り一面にさく菜の花畑に、一日がくわてゆくうとしている。東の地平には、月が上り始め、
西の空には太陽がしずもつとしている。

読んだ回数	()	()
で囲む	()	()
11	1	
12	2	
13	3	
14	4	
15	5	
16	6	
17	7	
18	8	
19	9	
20	10	

先生の評価	()	()	よい姿勢	すらすら読む	俳句の暗唱	意味が言える
私の評価	()	()				

() () () () () () () () () ()